ダニエル・カールの

教えて！村長さん

～長野県川上村訪問編～

今回、「聞きたい！消防団」の取材で長野県川上村の消防団をお訪ねしましたが、同村の藤原忠彦村長さんからもお話を伺うことができました。

村の防災対策などいろいろなお話をしていただき、たいへん勉強になりました。

藤原村長

ダニエル・カール

（川上村役場で撮影）

ダニエル まず、村長さんからは、川上村の防災対策などについて教えていただきました。川上村ならではの状況がたいへん興味深かったです。

ダニエル 本日はよろしくお願いします。さきほど、消防団長さんたちからたくさんの話を伺いました。防災からレタスのお話まで、すごくいい勉強になりました。おかげさまで、川上村のファンになりました。これからはレタスを食べる度に思い出します（笑）。

藤原村長 ありがとうございます。

ダニエル まず、お尋ねしたいのが、村の危機管理や防災対策についてです。今は、どんな災害がいちばん心配ですか。また、どんな対策をとっていますか。

藤原村長 やはり集中豪雨が心配です。御存知のとおり、川上村は高原野菜の産地で、2,000ヘクタール近くの畑がありますが、全部マルチング（土壌の乾燥や多湿，地温の上昇などを防ぐため，わらやビニールで耕地を覆うこと）をしてあります。ビニールを張っています。ですから、雨が降っても地下に浸透しないで流れてくるから、けっこう水が集落へ出てきます。また、集落は比較的岩盤の安定したところが多いので、大きい土砂災害はないのですが、それでもまったく予想がつかないところで崖崩れがあったりしていますので、防災計画の見直しをしています。特に集落に近い土砂崩れの恐れがある場所や、雨水が集まりやすい場所などについては、住民に徹底して周知し、それらの場所の保安工事をしっかりやっていくことを考えています。

また、もう一つは、かつて避難所にしていた場所で、今は危なくなっているところもあります。昔は、大きい公共建物ならば安全だろうということで、そういう建物については、（特に立地などを考えずに）どこでも避難場所として指定してしまった感があります。（今は）高台にある施設を（避難所に）指定していますし、また、地震の発生もあり得ますので、建築上、耐震性の高い施設を指定するなど、より安全な施設に避難所を設けています。たまたま川上村は農家の家も大きいので、今後は民家を避難場所に指定させてもらうことも考えています。

ダニエル なるほど、避難所としてね。確かに（役場まで来る際の）車から見た皆さんの家は、一軒一軒、大きかったですね。

藤原村長 100坪ぐらいの家がざらにありま

すので。安全な場所であれば、公共施設に限らず、個人住宅についてもお願いして、避難所にしていただけたらと思っています。

ダニエル 村の人口は4,000人くらいと伺いましたので、避難勧告が出ても、ものすごい人数に避難してくださいということにはなりませんよね。

藤原村長 集落ごとに分ければ対応ができるかと思いますので。そのためにも、避難計画をしっかり考えていきたいと思います。

ダニエル 村長さんが在任中、避難勧告を出すような大きな災害はありましたか。

藤原村長 今日までは比較的安全でしたね。台風災害はありましたが、避難勧告は1回だけだったと思います。

ダニエル さきほど伺いましたが、30年くらい前に大きな被害があったそうですね。

藤原村長 昭和57、58年の台風ですね。あれはたいへんな災害でした。あの災害の後、国土交通省の大型河川整備事業で、ほとんど全ての堤防は整備し直しましたので、それ以来、大きい災害はありません。ただ、最近は、集中豪雨がほんとうにどこでどう降るかわかりませんから。この間は8月に雹（ひょう）が降って、幸い人家や人命の被害はなかったのですが、農作物には大きな被害が出ました。

ダニエル こちらはあまり雪が降らないそうですが、今年（平成26年）の冬は、大雪で大変だったそうですね。

藤原村長 そうですね。あまり雪の降らなかったところに降りましたから。1メートル20センチ程降りました。いちばん多い場所では、1メートル70センチ程積もったと聞いています。まあ、多い地域のかたから見れば、たいしたことがないのかもしれませんが…。

ダニエル 山形では2、3メートルも積もるところもありますね。でも、慣れていないかたにとっては、大変なショックだったと思います。

藤原村長 この辺りの地域では、川上村がいちばん道路の開通が早かったんですよ。

ダニエル 除雪車は使わなかったそうですね。

藤原村長 村民の力だけで対応しました。消防団の皆さんもがんばってくれました。おかげで国道につながるのが早かったですね。

ダニエル 慣れない雪の対応で、消防団員のかたも村のかたも、皆さん、大変だったと思います。お疲れ様でした。今度の冬には、こんな大雪が降らないことをお祈りいたします。

ダニエル　続いて、村長さんからは、川上村の消防団人気の秘密や消防団への思いを教えていただきました。村長さんの消防団への熱い思いが伝わってきて、思わず私も熱くなりました。

『消防団が力強いということが、最大の安全保障の担保』

ダニエル　消防団員のかたがたとお話をしましたが、皆さん仲が良さそうですね。

藤原村長　今は村の最大のコミュニケーションの場ですから。

ダニエル　川上村の消防団員の定数は、280人だそうですね。

藤原村長　人口の減少もあって、だんだん団員数も減りました。かつては、条例定数は322人だったのですが、常備消防が出来ましたので少し減らしてもいいかということになり、300人に減り、今回、280人にしました。

ダニエル　こちらの消防団には、定員の100パーセント近くの団員がいると聞きました。すごい人気ですね。どうしてそんなに消防団に人気があると思われますか。

藤原村長　やはり消防団のコミュニティがしっかりしていることですね。多少勤め人のかたもいらっしゃいますが、ほとんどみんなが農業後継者で、同一の職業・同一の産業をしているという点もあると思います。

どこの勤務場所でも消防優先ということで村がお願いしております。もし、一朝有事のときは、消防最優先ということで、対応していただいています。

ダニエル　一緒に訓練をした経験や、真剣に自分の故郷を守りたいという気持ちから、皆さんが一心同体になっているんでしょうね。

藤原村長　そうですね。今年は県大会にポンプ操法の隊とラッパ隊が出場しました。ポンプ操法では、二人が個人の技術賞をもらいました。

ダニエル　さきほど消防団の皆さんからも伺いました。村長さんは、消防団にお詳しいですね。

藤原村長　私も消防団経験者ですから。

ダニエル　えっ、そうなんですか。

藤原村長　もう辞めていますが、昔は分団長や（役場の）消防本部長もやりました。父が消防団長をずっとやっていたんですよ。

ダニエル　消防団員の経験者が村内のいたるところにいるような感じですね（笑）。若い人がどんどん入ってくるそうですし、先輩・後輩関係が良さそうでいいですね。消防団を辞めてもまだまだ先輩ということで、皆さん、後輩からアドバイスを求められたりするんでしょうね。

藤原村長　消防団の中では、いろいろな勉強ができると思いますし、先輩を敬う気持ちもそこで培われているのかもしれません。

ダニエル　こちらで消防団が人気のある理由の一つかもしれないですね。消防団員は頼りになるイメージが強いのではないでしょうか。

藤原村長　村民もきっとそう思っていますから。何と言っても、消防団が力強いということが、最大の安全保障の担保ですから。

『社会人としての責任で消防団に入るのは村の常識』

ダニエル　御自身が消防団員だったときの思い出話などを教えてください。

藤原村長　私が消防団員になった当時は人数が多すぎたので、まずは消防団員補という「補」という形で入りましたね。正団員でなくてね、昔は補欠の「補」というのがあったんですよ。

ダニエル　アシスタントみたいな感じですか。

藤原村長　はい。予備の団員という形で、それを１年やって、ようやく正式の団員になるんですよ。

ダニエル　皆さん同じようにですか。

藤原村長　そうでしたね。

ダニエル　何歳で団員になったんですか。

藤原村長　18 歳ですね。

ダニエル　当時は、その年頃で皆さん団員になったんですか。

藤原村長　高校を卒業すればだいたい入っていましたね。

ダニエル　一人まえになったというか、大人として認められたということですかね。地方によって違うとは思いますが、農家の多い団はみんなけっこう早めに入っている印象を受けますね。

藤原村長　川上村の場合は、社会の役目というか、もう皆さん、そういう意識ですから。みんな入ってくれます。

ダニエル　消防団の皆さんもおっしゃっていましたが、この辺りでは、消防団に入るのがあたりまえのことだと…。

藤原村長　消防団員になって正式に消防団活動しなければ地域の一人まえとして扱っていただけないという、そういうところもあるかもしれませんね。

ダニエル　消防団にならなければいけないというような制度などはないとは思いますが。

藤原村長　（消防団に入ることは）村の秩序の中でちゃんと位置付けされています。消防で奉仕できない人は、一人まえじゃないという思いが村民感情の中にはあると思います。これはもう卒業して社会に出た第一歩として、社会人としての責任で消防団に入るのは村の常識ですから、団に入ることに対して、抵抗がないのではないでしょうか。

ダニエル　経済的に安定していることもいい影響になっているなあという印象を受けます。皆さんの平均収入もなかなかいいそうですし（笑）。なんだか幸せな村だなあという感じがしますね。

藤原村長　まあ、後継者には恵まれていますね。今は、消防団員の多くが農業関係の大学や専門学校を卒業していますから。さきほどのラッパ隊にも、大学でトランペットを吹いていた人がいましたね。

『（消防団は）「確かにあるということ」に意義がある』

ダニエル　（村長は）18 歳から団員になって、40 代ぐらいまでやられたのですか

藤原村長　私のときは、35 歳くらいでみんなが退団でした。最近は少し定年が延びましたね。

ダニエル　40歳あたりが定年ということでしたよね。ここで、世代交代ですか。

藤原村長　そうですね。消防団員を勤め、消防団幹部を勤めて退団し、地域の自治会の役員を勤め、そこでそこの区長さんみたいな役割を担って、それから村会議員に出るという流れがね、何となく一つの伝統としてあるんですよ。まず、消防団の幹部になることが、村の中のいろいろな場面にデビューする登竜門になっていますね。

ダニエル　そういうプロセスがあるわけですね。

藤原村長　一つの命令で、個ではなくて一つの共同体で動くというのは、消防、警察、自衛隊ぐらいしかないですよね。そういう点でも、消防団は一つの社会勉強の場ですから。

火を消すことだけでなく、むしろ、消防団員生活のなかで人格形成がなされているということですから、消防団は人格教育の場ですね。

（消防団は）存在して活動しないことがいちばんいいことなんですよ。訓練だけで、本番がないことがいちばんいい。火事がないほうがいいに決まっています。（消防団は）「確かにあるということ」に意義がある。これからも、そういう地域であってほしいですね。

ダニエル　消防団員になれば、部分的に消防士のような活動もできますし、ほかにもいろいろな体験ができると思いますので、一人一人の視野が広くなると思いますしね。

藤原村長　まあ、消防団の消防力は民力ですから。限界集落というのは、やはり消防力がないからそういうことになるんでしょうね。今、地方創生がよくいわれていますが、これをしっかり保つことがね、最大の柱ですよ。

消防団は、奉仕の団体ですから。（消防団は）一朝有事のときにいつでも出られるという状況と、常に村を守っているという状況にあり、いざというときの対症療法もできますし、予防消防もしっかりできる。（消防団は）地域にとって、生活安全上のいちばんのノウハウを持っている団体です。だから、消防団をしっかり作っていくことは、地域をしっかり作っていくこととイコールだと思っています。

ダニエル　村の皆さんは、消防団員の皆さんを見て、安心していると思いますよ。さきほども団の皆さんとお話したとき、お互いのフォローがよくて、気が合っているなあと感じました。

藤原村長　うちの消防団では、構成上、副団長を4年勤めた後、団長を2年勤めることが慣例となっています。つまり、必ず副団長になった人は団長になるということになっています。ですから、副団長を選ぶときは団長候補を選ぶんですよね。だから、そういう点ではうまくローテーションが出来ています。団長になるときにはもう4年間の副団長の経験がありますから。もう何があってもだいじょうぶな体制で団長に就任しています。条例などでは定められていないルールがあって、それがちゃんと守られています。また、村には8つの集落がありますが、次はどの集落から副団長が出るということが決まっていますので、地域的にもしっかりカバーできるようになっています。

『消防団の「存在価値観」』

ダニエル　思い出も含めていろいろなお話を聞かせていただきました。

藤原村長　もう消防団は古巣ですよね。消防団があって、あれだけの団員がいて、いつでも出動できるという態勢がある。火災や災害がある・ないは別にして、村の皆さんの住民心理の中に、消防団の「存在価値観」がしっかり定着しています。ですから、消防団員がいなければ非常に不安だということになります。消防団をたいせつにしなければいけません。年末警戒では、私は全分団を回りますし、27年間、私は村長をやっていますが、1回だけ出初め式に体調が悪くて出られなかったことを除けば、消防出初め式と年末警戒には必ず出ていますし、総合訓練にも必ず出ています。もうこれは最優先で行っていますね。

ダニエル　最後に一言お願いします。

藤原村長　川上村に消防組が出来たのは大正3年頃ですが、まあどこもそうだと思いますが、やはり消防文化というものがあるんですよ、伝統的な。その伝統はしっかりつながっていて、集落ごとにみんな特徴がありますよ、分団ごとにそれぞれ。みんないい伝統でつながっています。昔からそうですが、消防団は、火事が出たり事件があったりすると大変ですが、それ以外では、お祭りのような雰囲気もあります。もういろいろな活動がお祭りに近いですね。ひとつの地域文化ですよ。ですから、消防がなくなるということは、地域文化がなくなるということです。そういう捉え方をしておかなければいけません。火事だから出動しますというだけではダメなんですよ。

ダニエル　なるほど。

藤原村長　やはり、その後ろには、消防カルチャーという文化があるから、皆さん寄ってくるんですよ。誰もがはっきり意識はしていないけれども、伝統や文化がちゃんとあって、それがちゃんと伝承されているんですよ。ですから、どこに魅力があるかと問われれば、なかなかぴたりと答えられないこともあるかもしれませんが、相当な魅力が潜在していますので、（この村では、消防団にみんなが）入ります。村で一朝有事があればいつでも飛び出す、そういうもの（気持ち）を心の中にちゃんと作ってきているんですよね。地域の消防文化というのは、ほんとうに大きなエネルギーなんですよ。

ダニエル　熱いメッセージ、どうもありがとうございました。